

ボランティア連絡会



SUITAすまいる

吹田市ボランティア連絡会ホームページアドレス
https://suitashiboraren26.jimdofree.com/



第141号

編集・発行

吹田市社会福祉協議会ボランティアセンター
吹田市ボランティア連絡会

〒564-0072 吹田市出口町19番2号
市立総合福祉会館内
TEL (06) 6339-1210

— 広めよう 深めよう ボランティア活動 —

グループの活動にズームin! 見学・体験いつでもOK!

歌体操介護予防市民塾

初めに歌を歌い、リラックスした雰囲気を作り、歌の上手下手は関係なく、会話の困難な人でも歌うことで声を出せるようになります。

深呼吸は肺機能を促進し、指体操は脳を刺激します。次に基本体操に入りますが、ここからは曲に合わせて上から下まで無理なく動かし、どこに効いているか、関節、骨、筋肉等を意識しながら、体を動かしていきます。お楽しみは懐メロ、童謡唱歌、歌謡曲等皆の知っている曲を使いながら、座位、立位で楽しんでもらっています。

指導者養成講座を年2回開催し、ボランティア活動に繋がればと思っています。3月16日(月)メシアターで歌体操交流会を開催します。毎週火曜日10時からの夢つながり未来館での練習も含め、いつでも見学OKです!!



朗読工房

私たちは「読み語り」の活動をしています。児童センターや小学校、図書館、施設などで、絵本や朗読、紙芝居などお話の世界を楽しんで頂いています。そして現在33名のメンバー自身も、各々興味のある自分に合った読み読みの活動を楽しんでいます。



交流会



勉強会

音訳グループ「とも」

わたしたちのグループは、視覚障害の方のための音訳物を作成しています。「新聞記事(コラムと社説・医療)」「声の雑誌「とも」」「俳句」などの定期刊行物の他、図書館蔵書や個人依頼の図書をCDやテープに録音し、利用者さんにお届けしています。

年に一度開かれる「交流会」はその利用者さんとお会いできる貴重な「とも」の自慢できるイベントです。また講師の先生をお招きしての勉強会も開いて、音訳技術向上のため日々頑張っています。

毎月2回月曜日の例会と毎週のダビング作業を総合福祉会館で会員みんなで行い、おしゃべりしながら楽しくやっています。



吹田社協ボランティアセンターより 行事案内とお知らせ

◆吹田市社会福祉協議会ボランティアセンターまつり

日時 3月8日(日)午前10時から午後2時
場所 吹田市立総合福祉会館

◆ボランティア入門講座

ボランティア活動の基本的な知識や心がまえを知り「はじめの一歩」を踏み出してみませんか?すでにボランティア活動をされている方も大歓迎です!

日時 3月23日(月)午後1時30分から午後3時30分
場所 吹田市立総合福祉会館
定員 20名
参加費 無料

◆歌体操ボランティア養成講座(5回講座)

歌体操を通して楽しくボランティア活動を始めませんか。

日時 4月7日(火)、14日(火)、21日(火)、28日(火)、5月12日(火)すべて午後1時30分~午後3時30分
場所 吹田市立総合福祉会館
受付 3月2日(月)~3月31日(火)
定員 先着20名
参加費 無料

◆令和8年度ボランティア保険加入受付開始

安心してボランティア活動をしていただくためのボランティア保険の申込みが3月9日(月)より始まります。

◆福祉ボランティアグループに助成金交付

福祉ボランティア基金の運用益で助成します。

対象 センター登録して1年以上経過し継続的に活動している福祉ボランティアグループ。
申し込み 吹田市社会福祉協議会窓口にて令和8年4月1日(水)から15日(水)まで受付いたします。

◎お問合せ・申込み
吹田市社会福祉協議会ボランティアセンター
TEL 06-6339-1210 FAX 06-6170-5800(土日祝除く)
メール suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp

吹田市社会福祉協議会 福祉大会

ボランティア感謝状
おめでとうございます

1/24

- 西村 征雄 (笑楽の会)
- 岸下 美江子 (Vグループ花から)
- 千原 孝子 (祥瑞流詩舞会)
- 下村 加代子 (音訳グループあい)
- 森山 亨子 (ほっと吹田)

- 厚生労働大臣賞
- 北嶋 玉枝 (音訳の会)
- 笑楽の会
- 内閣府 エイジレス章
- 利波 安紀子 (精神保健福祉Vグループ)



厚生労働大臣賞
受賞!!
浅草公会堂にて

11/12

▲北嶋さん、笑楽の会 西村さん、お祝い横断幕と

内閣府エイジレス章って?



内閣府 エイジレス章とは
年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由で生き生きとした生活を送り、エイジレスライフ実践の模範として表彰。

利波さんはH5年精神保健福祉Vグループ「アムール」に入会。吹田市が精神障害を持つ人にも住みやすい街であることを市民に周知するため、H7年に市民の会「こころの交差点」を発起。吹田市のヨロガ指導員、パソコン教室運営、当事者には無料開放。

地域でのボランティア活動

シニア世代 私のボランティア

私の子どもが、地域の子ども会でお世話になったことをきっかけに、その恩返しの意味もあってボランティア活動に目覚めました。

その後は自治会活動での様々なボランティアをしました。更には、地区福祉委員会を通じてボランティアを学び、高齢者から幼児に至るまで行き届くよう現在努力中でございます。

ボランティアを受けた方もしは間違いありません。引き続き、多くの皆様の幸せを願い、四つの原則(自発性・社会性・無償性・先駆性)を守り活動に邁進したいと思っております。



▲子育てサロンで活動中

ボランティア相談

ボランティア活動をはじめたい方、ボランティア依頼を希望する方、気軽にご相談ください。

吹田市社会福祉協議会ボランティアセンター
TEL:06-6339-1210(土日祝除く)
Mail:suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp



編集後記

「少年に似て阿修羅は緘(ほそ)き手を合す乾漆の朱のこる胸の前」
「さんしゅゆの樹下の雨の水たまりわずかなる細き花かた寄せて」
母がお世話になったM医師の歌。
三十三間堂にも阿修羅様が安置されているとか...。
寒さ緩む頃、京都に御仏様とさんしゅゆの花に逢いにい出か故人達をしのびたい。
春よ来い、はやく来い!!
野口 美保子

城跡・古墳・埴輪そして将棋の街「高槻」にて 府市町村ボラ連 北摂ブロック交流会

今年度は高槻市担当で、高槻城公園芸術文化劇場南館にて開催されました。

①講演会「歴史の宝庫たかつきをテーマに高槻市埋蔵文化財調査センター今西所長のお話でした。発掘調査半世紀、日本初の埋文センター50周年の歩みについて、出土品の埴輪や、土器を通して説明がありました。

②「災害関連研修会」クロスロードゲームを1グループ5人に分かれて体験しました。災害時

福社委員、そして私たちボランティアにとって見落としてはならない個人情報を知りやすい形で、しかも事例を交えて学ぶことができました。

高齢社会になった昨今、個人情報守秘義務を頑なに守ろうとすれば、地域活動においてはお互いが支え、支え合うのが難しいと言った状況でもあります。

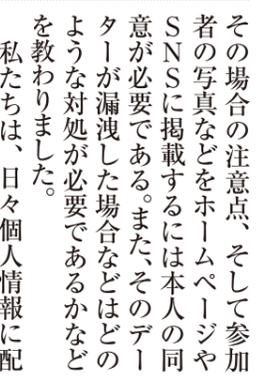
そんな中、私たちは常に名簿や台帳等を扱う場面があります。

その場合の注意点、そして参加者の写真などをホームページやSNSに掲載するには本人の同意が必要である。また、そのデータが漏洩した場合などはどのような対処が必要であるかなどを教わりました。

私たちは、日々個人情報に配慮しつつ、ボランティア団体も事業者の一員であると言いつつ、自覚を持ちながら活動しなければならない社会の中にいることを改めて認識した貴重な時間でした。

その一人一人の考え方があり、お互いに聴き取ることで学ぶことが多くありました。多くの方に経験して欲しいと思います。

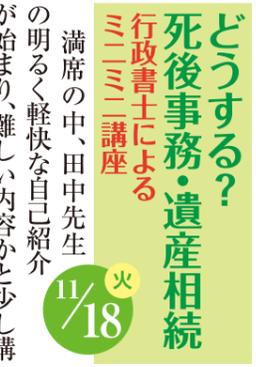
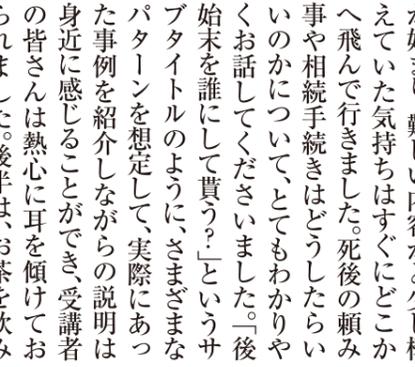
③ボランティアガイドの案内で、4か所の歴史散策を楽しみました。高槻城跡の石壁の一部が残り、公園として歴史の豊かな広さでゆったりと過ごせる雰囲気がかつたです。歴史の街を彷彿させる研修でした。



どうする？ 死後事務・遺産相続 行政書士によるミニミニ講座

満席の中、田中先生の明るく軽快な自己紹介が始まり、難しい内容かと少し構えていた気持ちはすぐにどこかへ飛んで行きました。死後の頼み事や相続手続きはどうしたらいいのかについて、とてもわかりやすくお話ししてくださいました。「後始末を誰にして貰う？」というサブタイトルのように、さまざまなパターンを想定して、実際にあった事例を紹介しながらの説明は身近に感じることができ、受講者の皆さんは熱心に耳を傾けておられました。後半は、お茶を飲みながらの個別相談会でした。田中先生のほかにも行政書士の先生方が来られていて、それぞれに丁寧な対応をしてくださいました。最後まで本当に有意義な時間でした。

松尾 佳世子



年1回の親睦交流会を実施。60名を超える参加を得、「防災すごろく」「手話歌」などで大いに盛り上がりました。



令和7年度 親睦交流会 1/23 金

メシアターレセプションホール



災害支援の最前線から学ぶ 災害支援ネットワークに参加 千里市民センター

元全国社会福祉協議会職員で現在福祉分野災害支援の専門家、園崎秀治氏を招いての集まりでした。

講演で印象的だったのは、今の災害Vは二次元コードで登録。Vセンター運営はkintoneというソフトでニーズの管理、それは地図と関連させることができ効率化されている。なにより災害による「直接死」より「関連死」の方が多いということ。

後半はダッシュ隊の中嶋さんも交えグループ交流。氏は能登半島に40回通い、100日活動されました。能登ではVが入るまでひと月かかり被災者は憔悴。トラウマを抱えた被災者の苦しみを聞いてあげることが重要だと実感したそうです。

私たちは今災害あれば力仕事が無理な人でも被災者に寄り添いお話を聞くことはできる!!と心構えを新たにしました。



▲吹田市総合防災センター(DRC)にて